



進化する災害報道

平成30年10月24日

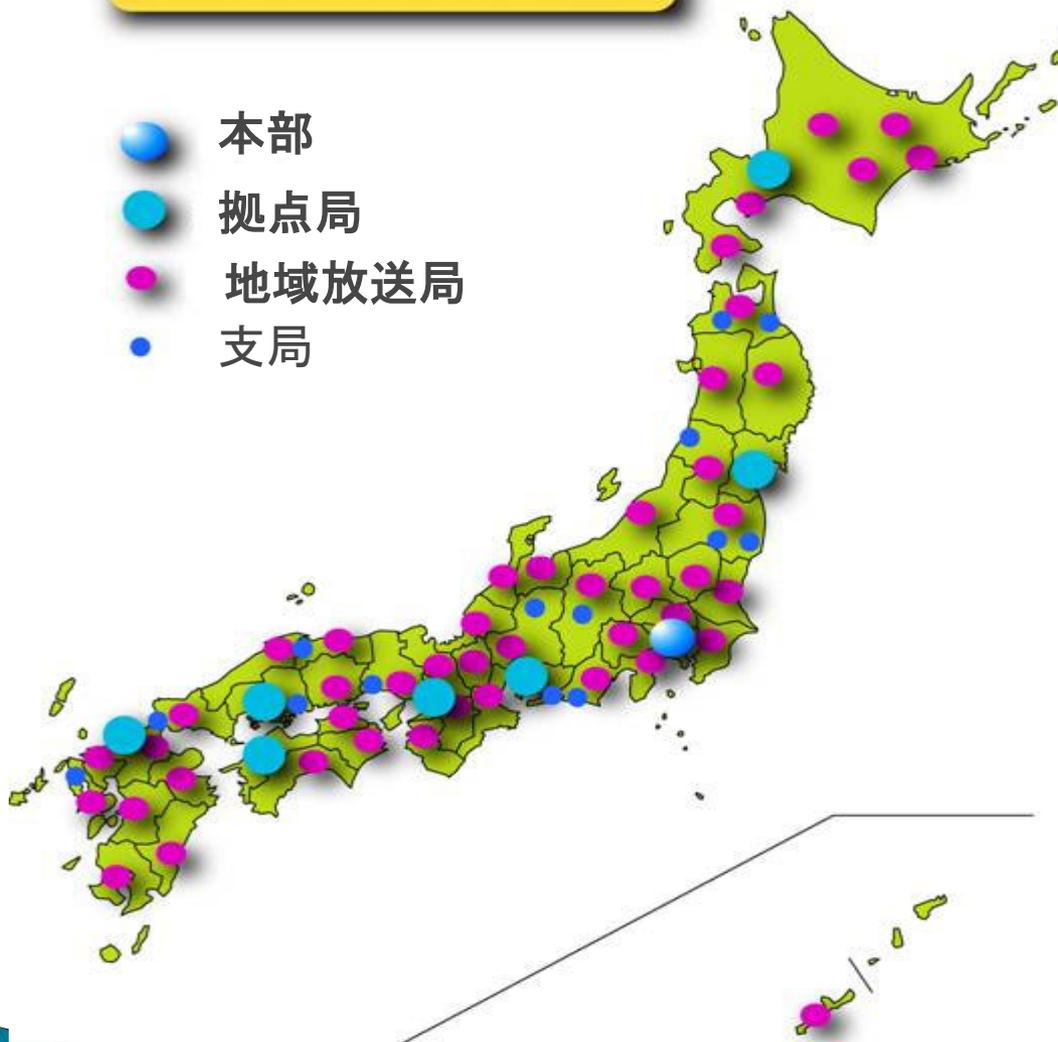
NHK報道局 災害・気象センター
橋爪 尚泰

NHKの放送局

全国 54 局

(本部・拠点局・地域放送局)

- 本部
- 拠点局
- 地域放送局
- 支局



<保有メディア>

TV 4波 (+データ放送)

総合 (GTV)

Eテレ (ETV)

BS1

BSP

RADIO 3波

ラジオ第1 (R1)

ラジオ第2 (R2)

FM

WEB

災害報道の役割

<災害時>

①被害の軽減・防止

社会のモードを切替える

②救援活動の支援

全体状況、最大被害を迅速に

③生活再建・復興支援

長期的に心と暮らしを支える

<平常時>

④安全な社会の構築

課題提示、記憶継承 “想像力”

「情報で命を救う」可能性にかける！

震災や台風の教訓

東日本大震災

○約30分間で21回の避難呼びかけ

「海岸や川の河口付近には絶対に近づかないで下さい」

⇒“**いつもとの違い**”が伝わったか

○ロボカメの描写、電話インタ

「被害の情報は、今のところありません」

⇒“**正常化の偏見**”助長しなかったか



平成28年台風10号

○上陸前から異例の番組、特設ニュース

岩手県岩泉町など東北・北海道で甚大な被害

⇒“**個別の地名**”をもっと早く伝えられたら

災害を「自分のこと」に

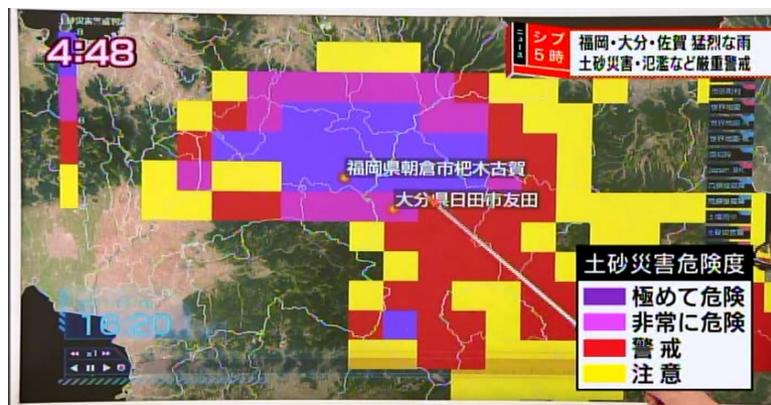


避難最優先・行動を促す強い呼びかけ

きめ細かな情報で危機意識を高める



気象状況をリアルタイムに伝える



危険性を具体的な地名を地図で

西日本豪雨で新方針

▼報道したが200人を超える犠牲者（避難間に合わず）

広域豪雨災害で避難を促すにはローカル放送充実しかない

[原則]

命の危険が迫る時、地方局での避難呼びかけ最優先

- 避難呼びかけのモードを判断しローカル放送を充実
- 避難呼びかけは「どぶ板情報」と「強いアナウンス」
- ローカル放送に邁進できる環境整備

情報のどぶ板化と省力化

自治体の避難情報を自動作画⇒避難呼びかけに活用



NMAPSのデータナビゲーターで自動取得・自動表示

▼PCをイントラに接続⇒画面を放送で使用可能

避難勧告【広島県】

広島市東区 馬木三丁目、四丁目、七丁目及び八丁目の、大谷川の新直助橋から上流の護岸沿いの区域	1492世帯 3321人
広島市安佐北区 井原小学校区の三篠川から以東（神ノ倉山側）の中東地区及び沼地区	262世帯 486人
広島市安芸区 畑賀	1534世帯 3438人
広島市安芸区 瀬野	2302世帯 5034人
広島市安芸区 中野	4241世帯 8708人
広島市安芸区 寺屋敷	319世帯 483人
広島市安芸区 船越	1653世帯 3559人
広島市安芸区 矢野	2822世帯 6437人

07月26日14時00分

自治体から配信されたデータをそのまま表示（※はNHKが取材した情報）

避難所【呉市】

仁方まちづくりセンター

吉浦小学校（体育館，教室）

畑老人集会所

吉浦中学校（体育館，教室）

天応小学校（体育館，教室）

天応まちづくりセンター

07月24日14時16分 自治体から配信されたデータをそのまま表示（※はNHKが取材した情報）

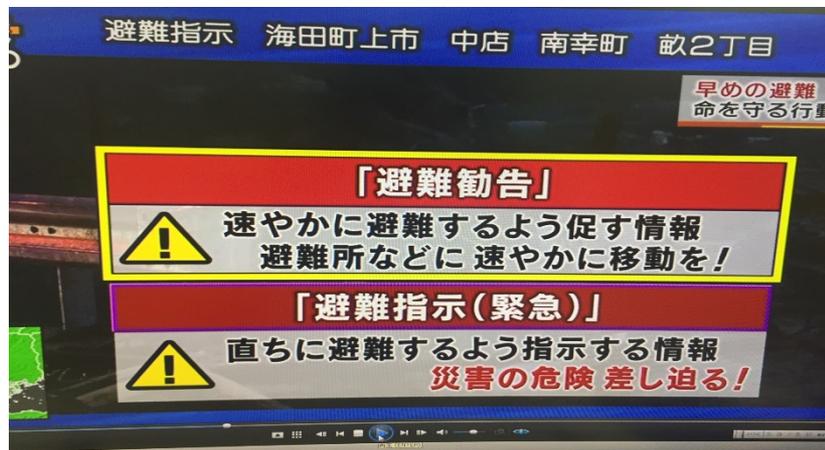
避難指示【広島県】

避難勧告【広島県】

避難所名・品名等避難所名【広島県】

避難所【府中町】

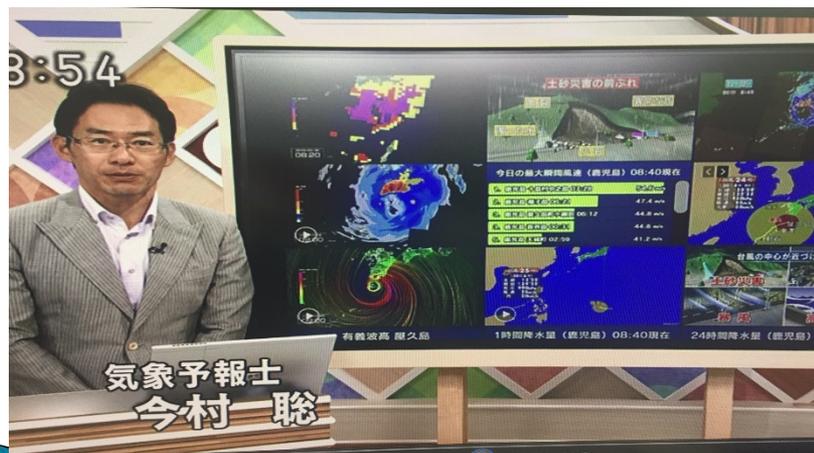
地域放送の取組



判りやすい解説



県防災WEBへ誘導

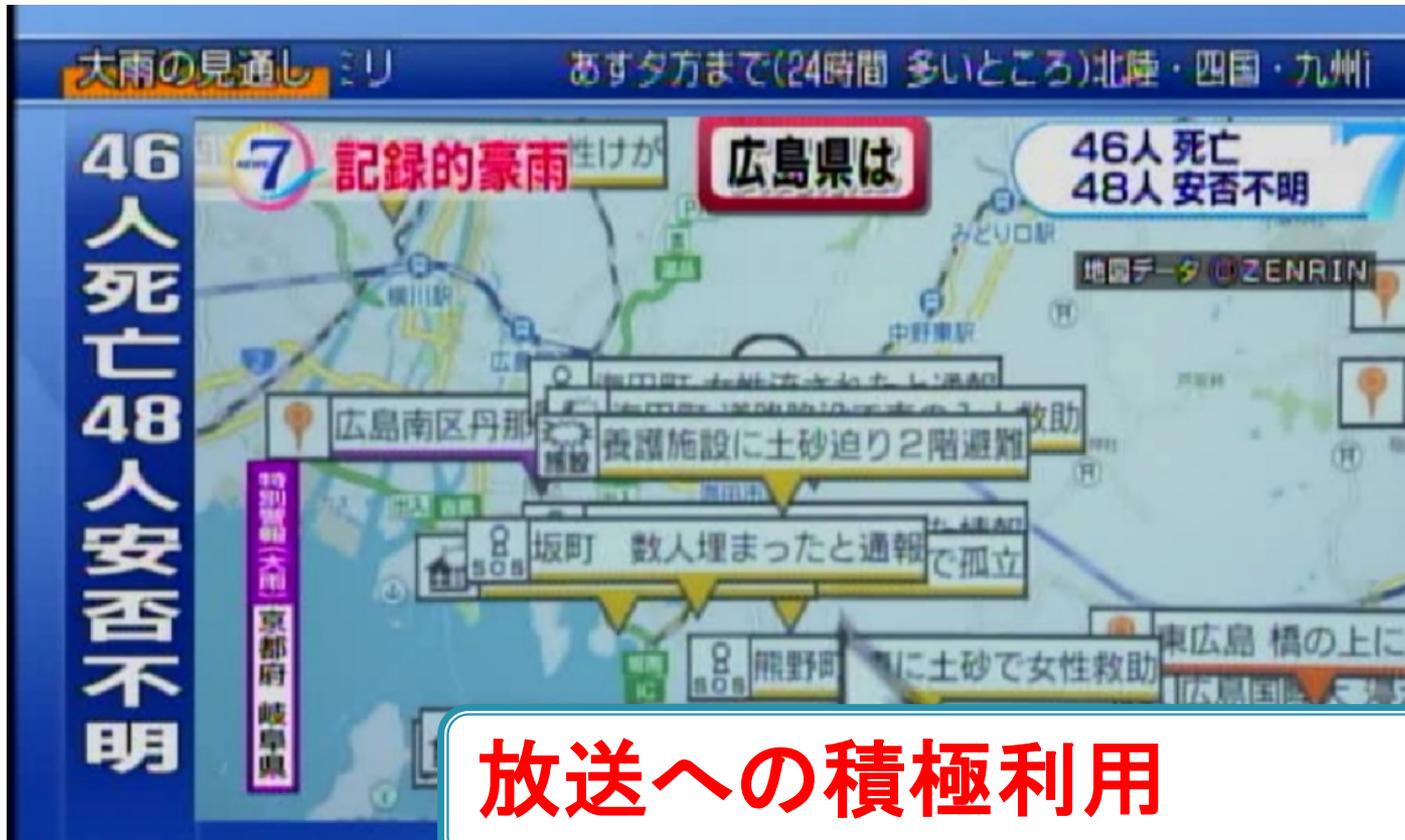


地域密着の予報



2次元バーコード誘導

電子地図システム活用



放送への積極利用

- ・ 被害を面的に表現できる
- ・ 映像のない情報も伝えることが可能

専門家との連携



河川事務所との連携

- ・ 山口放送局



防災士との連携

- ・ 大津放送局

ひとりひとりに向き合う

「NHKニュース・防災」アプリ (2016年6月～)

NHK
ニュース
防災

▽位置に結びついた情報(市町村単位)

▽警報等のプッシュ通知

▽放送の同時配信・ライブ映像



今後の方向性

タブーなき誘導

- ・ 放送を使って最適な情報へ誘う
- ・ NHKだけで賄いきれない  誘導に徹す

専門家にマイクを渡す

- ・ 災害・避難・高齢者  必要な時に発言
- ・ その道のプロの専門性と直感に説得力